

スティグマと アドボカシー活動

茨城県保険医協会理事 山崎 勝也

皆さん、スティグマという言葉聞いたことはあるでしょうか？日本糖尿病学会では「糖尿病の治療ガイド 2020-2021」の中で、糖尿病の治療目標にスティグマや社会的不利益、いわれのない差別の除去が加えられました。現在、予備軍を含む糖尿病に関わる患者数は2,000万人と推定され、成人の4人に1人が関係する一般的な病気になっていますが、一般の人の持つ知識は正確なものばかりではありません。古い情報や誤った情報により、必要なサービスを受けられない、就職や昇進に影響するなどの不利益を被るケースが報告されています。このように糖尿病が原因となった「スティグマ」（訳すと負の烙印でしょうか。誤った知識や情報が広まることで、不利益な状況になることです）を放置すると、患者さんは糖尿病であることを周囲に隠して適切な治療の機会を逸し、糖尿病が重症化することにつながっていきます。正

しい治療を適切に続ければ、一病息災で長寿を全うできます。「血糖コントロールを適切に行うことで合併症発症を減らし、医療費削減にも貢献できる」ということを社会に発信していく必要があります。糖尿病に対するスティグマを放置すると糖尿病患者さんが社会活動で不利益を被るのみならず、治療に向かわなくなる弊害をもたらすため、糖尿病であることを隠さずにいられる社会を作っていくことが大切です。こうした背景に基づき、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は糖尿病患者さんが糖尿病という病気を理由に不利益を被ることがなく、治療を継続して糖尿病のない人と変わらない生活を送ることができる社会環境をつくることをめざして、「アドボカシー委員会」を設立しました。アドボカシーとは日本語に訳すと、権利擁護、権利、利益を擁護して代弁することです。糖尿病に正しい理解を推進する活動を通じて、糖尿病があっても安心して社会生活を送り、生き生きと過ごすことができる社会形成を目指す活動がアドボカシー活動です。

以上、糖尿病でのスティグマ、アドボカシー活動について書きましたが、精神疾患などでもスティグマが問題とされていましたし、いろいろな疾患でのスティグマがありそうです。現在、社会問題となっている新型コロナでも感染したことに対してやワクチン接種しないことへのスティグマが問題になっています。医療従事者として正しい知識を持って、スティグマを払拭するアドボカシー活動を行っていただければいいと考えています。